

省エネ性能の高いエアコン

28度設定は本当に省エネ？

環境省や経済産業省では、夏のエアコンの設定温度は、28度にしましょうと呼びかけています。

人の体感温度は、温度が高くなるに従い、湿度に大きく左右されます。湿度が高いと暑いと感じてしまうのに、省エネの進んだエアコンの設定温度を高くすると、除湿しにくくなります。とくにインバータの付いたエアコンはその傾向が顕著です。

では、どのようにすればよいのでしょうか？蒸し暑さを感じるときは、エアコンの設定温度を 24~26℃と 27~28℃を繰り返し変更するのが効果的です。設定温度を下げたときに除湿しやすくなるからです。蒸し暑さが解消されたら、設定温度を高くします。

除湿モードと冷房モードを繰り返し変更するのも良いのですが、除湿モードは冷房モードより、たくさん電気を使います。また、運転モードがしょっちゅう変わると、故障しやすくなりますし、バルブや電気系統の寿命も短くなる可能性があります。また、省エネ性能の高いエアコンでは、28℃の設定温度にこだわって、除湿モードで運転をし続けるのは、最も電気を使います。電力消費は、除湿モードの方が小さいように思えますが、そうではありません。除湿モードだと、冷房モードの3倍も電力を消費することもあるそうです。

それより設定温度を低くして、冷房モードで運転した方が省エネルギーになります。温度設定だけでは、省エネにならないということです。